

2005 年頭のご挨拶

2005 年 1 月 14 日

日本ボンド磁石工業協会
会長 原田 英樹

新年明けましておめでとうございます。景気は比較的好調に推移する中、ようやく国際協調、分業の成果を捉え、お忙しい年末を過ごされた事と拝察申し上げます。関東地区は年末ドカ雪に見舞われましたが、お正月は天候に恵まれました。例年より短い休日でしたが、ご家族そろって楽しくお過ごしになられたこと存じます。はつらつとして新しい年に挑戦して参りましょう。

昨年 1 2 月例年通り、国際シンポジウムを開催致しました。今回は猛烈な勢いで成長する中国の影響から生じる、世界の磁石の原料問題に力点を置いて開催致しました。先ずハードフェライトは、中国での生産が 2 0 0 4 年に、焼結、ボンド合わせて 4 0 万トンに達し、その原料に製鉄リサイクル酸化鉄はまだ十分に活用されていない事が分かりました。現在、中国は酸化鉄の輸入も行っております。希土類磁石は N d および S m は問題有りませんが、D y および T b はかなりの不足が生じ、価格高騰は避けられない見通しです。焼結 N d 磁石の中国での生産は 2 0 0 4 年に、電気自転車の好調な売れ行きに支えられ、2 万 5 千トンを超すものと考えられます。原料の制約から、種々な技術的改善が必要になると思われま

す。

ボンド磁石の市場は日本メーカーの健闘がはっきりと示されております。フレキシブルフェライトの国内生産は減少しましたが、リジッドフェライトおよび希土類の国内生産は前年とほぼ同額を維持し、海外生産はいずれの部門も大幅に増えました。国内生産は 2003 年対比 9 6 % 2 0 8 億円、日本メーカーの世界全体での生産は 5.2 億 \$ で、マグロールやスピンドルモータ磁石の強さが証明され、シェアは向上しております。今後も最も収益の出せる、顧客の要望に即した、適地適産が進むものと考えます。

2004 年 1 1 月中国上海地区の一流の中国磁石メーカーを中心に、協会主催で、1 1 社を訪問、最新の中国の生産状況を学びました。焼結希土類磁石の生産方式は 2 年前と変わらず、2 段プレス方式を継続していること、ボンド希土類は特許制約の陰がはっきりと見られること、フェライトボンドはロールシートは見られるが、インジェクションは始まったばかりであることなどを学びました。日本の精密特殊成形技術にさらなる磨きを掛けて行きたいと考えます。

事務局は多田専務理事が引き続き縦横にご活躍頂いております。スモーレストオフィス
を維持しながら、事務の一層の合理化を進めております。特に今年から新年賀詞交換会と合
わせて、世界的な権威有る方に、有益なお話を伺う、記念講演会を行うことに致しました。
今年には日本企業活性化のリーダでいらっしゃる、唐津一先生に日本の物作りの神髄をお話
頂きます。この企画は今後も毎年続けて行く予定です。

今年も世界経済は多くの不安要因を抱えております。規模の大きな自然災害も多発して
おります。どのような問題が生じて、常に自ら素早く、革新的行動を取る者のみが、発展
し生き残れるのだと考えます。今年も世界に広く目を向けて、明るく希望を持って頑張って
行きましょう。

以上